



②

長野再資源化研究所 (佐久市)

資本金 1,000万円
従業員 4人

ガラス発泡骨材

長野県では、廃棄物の排出抑制や循環資源の利用促進、環境負荷の低減に配慮した製品を「信州リサイクル製品」として認定している。この認定を佐久平で唯一認定を受けているのが、長野再資源化研究所が製造するガラス発泡骨材「ネクストワン・アルファ」。

私たちの生活から排出されるガラス瓶。色のついた瓶の多くは埋め立てが多かったが、この廃ガラス瓶をまったく違う

形のリサイクル商品として生まれ変わらせている。もともとは浄化槽工事を手がけている株式会社・不動産の出資。水をきれいにしたり、資源を大切にするという「環境」への取り組みが基本ラインに



▲長野再資源化研究所 志摩一雄さん

数年、志摩一雄社長が東京で行われた環境展で、日本再資源化研究所(山口県)の製造するガラス発泡骨材に出合ったのがきっかけ。以来、日本再資源化研究所のグループ企

業になり、ガラス発泡骨材の製造や、新しい可能性の追求に励んでいる。

この製品の大きな特性と効用は水質浄化。リンやアンモニアの吸着、分解効果があり、河川、湖沼の富栄養化防止と低減に効果があるという。現在開発中のガラス発泡骨材をパウダー化した凝集沈殿材は、水中の汚泥などを吸着し沈殿させ水をきれいにする特性を持つ。今後浄水場や下水処理場での活用が期待されている。

また、軽量盛土材や、踏みつけることと比較的大きな音を立てることから防犯砂利としてすでに利用されている。ガラスと牛のふん尿を融合させた土壌改良材としての機能を持つ製

品も開発中だ。「どのような可能性を持っている、どのように伸びていくかは自分たちでも計り知れない。佐久平にとどまらない、どこでも商売できるものを生み出したい」と志摩社長は、廃ガラス瓶リサイクルの無限の可能性に期待している。



実用例▶



▶原料のガラス瓶

▶ネクストワン・アルファ